

# それぞれの疾病に対する教育的立場の配慮と指導

## 疾病の病理に関する情報の共有化と 自立活動の充実を図る指導のあり方

高知県立高知江の口養護学校 教諭 林 孝子

児童生徒の健康の回復・改善を図り自己の病気を管理する力を育てるための指導においては、医学の進歩と共に変化する疾病の病理や配慮の仕方に関する情報と、自立活動の指導内容の充実を図るための情報が必要であると考えた。そのため、最新の医学情報を校内で共有化するため疾病に関するデータベースの作成を行った。さらに、自立活動の五つの区分の中の「健康の保持」と「心理的な安定」に関する教材・教具の研究・開発を行う手立ての一つとして、アンケート調査を行った。また、自立活動の「健康の保持」と「心理的な安定」に関する教材・教具の研究・開発も行った。

キーワード：疾病のデータベース、自立活動、アンケート、教材・教具、情報の共有化

### 1 研究テーマ設定の理由

病弱養護学校においては、在籍する児童生徒の疾病が多様化してくるとともに、医学の進歩により疾病に対する病理や運動制限、食事制限に対する考え方や配慮の仕方も変化してきており、疾病の最新の情報に関する研修が必要となる。第2期土佐の教育改革で教職員の資質・指導力の向上が柱の一つに掲げられているように、病弱教育に携わる者としては、それぞれの疾病に関する最新の情報について研修するとともに教育的配慮のあり方を検討し、児童生徒への日々の指導の中に生かせるよう研究する必要があると考える。

在籍校においても近年、医療の進歩や医療制度の変化、保護者のニーズの多様化等により、これまで長期療養を必要とした腎臓疾患や呼吸器系などの疾患のある児童生徒が、地元の学校に通うケースが多くなり、生徒数が減少してきた。一方で在籍校の児童生徒の疾病も近年大きく変わってきている。さらに、短期間での転出入が多いことが病弱養護学校の特徴である、このような実情の上で児童生徒を理解するための資料として、学習の状態等に関しては把握できるが、病理についての理解は、担当教員が個々に様々な方法で情報を得て指導にあたっているのが現状である。また、疾病に対する病理や運動制限、食事制限などの日常生活の仕方も変化しており、個々の児童生徒の日々の指導のために、変化する医療に関する最新の情報を整理し、在籍校の児童生徒の実態に合わせた資料の作成が必要であると考えられる。

そこで、たくさんの疾病の中から在籍校のニーズに合わせ、平成14年から平成16年に在籍した児童生徒の疾病と、代表的な小児慢性疾患について焦点を当てて調べることにした。そして、それぞれの疾病の病理や生活での配慮事項について情報収集を行い、日常生活での指導に生かせる資料作りを行いたいと考える。また、児童生徒の実態把握を効率的に行うために、疾病に関する最新の情報の共有化を校内で図りたいと考える。

児童生徒が健康の回復・改善を図り自己管理する能力を育てるためには、自立活動での学習が重要になる。

本研究では、自立活動の五つの区分の中の「健康の保持」と「心理的な安定」を取り上げて研究を行いたいと考えた。「健康の保持」では、疾病を理解する基礎知識を育てるために、体の仕組みと働きについての知識・理解と生活のリズムや生活習慣に関する学習の教材を研究したいと考えた。また、

「心理的な安定」では、余暇の過ごし方を豊かにするための具体的な活動について研究を行い、児童生徒の運動の制限からくるストレスを軽減し、情緒の安定を図りたいと考えた。さらにこの二つの区分に関する効果的な教具についても開発したいと考える。

## 2 研究目的

- ・それぞれの疾病の病理と学校生活における指導上の配慮を、在籍校の児童生徒の実態に即してデジタルデータにまとめ、病理に関する情報の共有化を校内で図る。
- ・個々の児童が、自分の疾病について理解を深め、日常生活を豊かなものにする活動ができるように、自立活動の五つの区分の中の「健康の保持」と「心理的な安定」に関する教材・教具を研究し開発する。

## 3 研究内容

### (1) 基礎研究

疾病について

心臓病、肝臓病、糖尿病、血友病、腎臓病、先天性巨大結腸症（ヒルシュスプルング病）、白血病、心身症、気管支喘息、二分脊椎、鎖肛、多発性神経炎、起立性調節障害、アレルギー、不安障害、境界例等について、医学書や病弱教育に関する著書や研究集録、疾病に関するホームページなどから情報を得て研究を行った。

自立活動について

自立活動については、主として『盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領（平成11年3月）解説 - 自立活動編 - 』や研究収録、独立行政法人国立特殊教育総合研究所のホームページ等にて研究を行った。

### (2) アンケート調査について

アンケート調査の目的

自立活動の五つの区分の中の「健康の保持」と「心理的な安定」に関するカリキュラムや教材・教具を研究し、開発するための情報収集としてアンケート調査を実施する。

アンケート調査対象

自立活動について特色ある取組を行っている全国の病弱養護学校(20校)に協力をお願いした。全国の病弱養護学校20校を選択するにあたっては、国立特殊教育総合研究所、病弱教育研究部病弱教育研究室主任の武田哲郎氏のアドバイスを参考とした。

### (3) アンケート調査結果の概要と分析

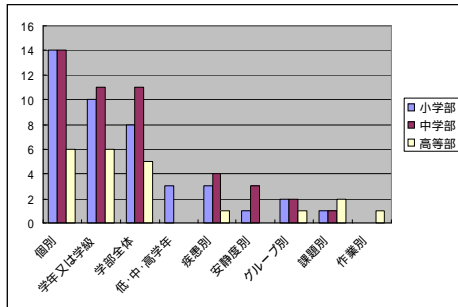
アンケート調査の内容は、指導形態、指導時間、「健康の保持」と「心理的な安定」に関するカリキュラムや教材・教具、余暇（休み時間）の過ごし方について行った。回収率は、20校中17校で85%であった。

自立活動の指導形態について

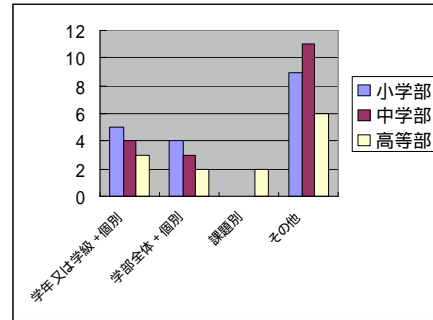
各校で行われている指導形態の「各学年又は学級」「学部全体」「疾患別」「安静度別」「個別」について、延べ数にまとめてみた。その結果、各学部とも個別の指導形態が一番多く、児童生徒に合わせた個別の指導の大切さがうかがえた。（グラフ1）

各学校で行われている具体的な指導形態の組み合わせでは、「各学年又は学級」と「個別」を合わせた指導形態が各学部とも一番多く取られていた。次に「学部全体と個別」を合わせた指導形態が取られており、「集団で行う学習」と「個」に応じた学習を大切にしていることがうかがえた。また、全体の半数程度の学校が、二つ以上の指導形態を組み合わせる指導を行い、児童生徒の疾病や心理面などの実態に合わせた指導を行おうとしている実態もうかがえた。（グラフ2）

グラフ1 各校で行われている指導形態の延べ



グラフ2 各校で行われている各学部の指導形態



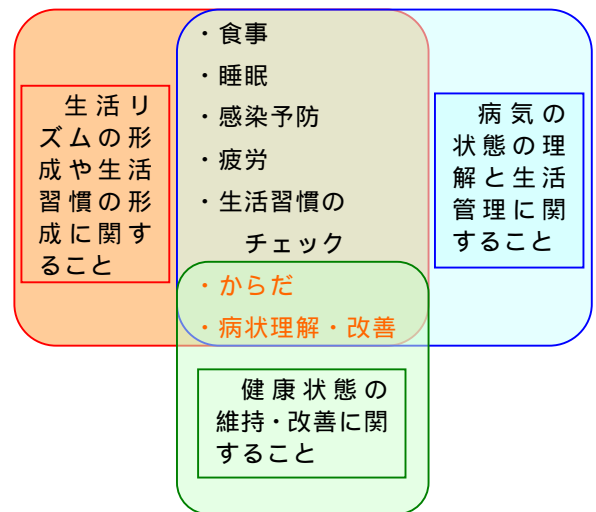
「健康の保持」について

ア 「健康の保持」に関する指導内容

「健康の保持」に関する指導内容については、各学校で様々な指導がされていた。

「健康の保持」の指導内容を、学習指導要領に示されている4つの項目に分けて具体的にどのような内容が指導されているのか分析を行った。その中の「生活リズムの形成や生活習慣の形成に関すること」と「病気の状態の理解と生活管理に関すること」の指導内容が重なるものとして、『食事、睡眠、感染予防、疲労、生活習慣のチェック、からだ、病状理解・改善』のような指導内容が見られ、多くの学校で取り組まれていた。さらに、先の二つの項目に「健康状態の維持・改善に関すること」が重なってくる指導内容として『からだ、病状理解・改善』といった指導内容があることが分析から分かった。(図1)

図1「健康の保持」に関する指導内容の重なり



このようにいくつかの項目に共通する指導内容は、児童生徒の実態に合わせて必要な項目を設定し指導計画を作成する場合に、相互に関連付けて具体的な指導内容を設定する上で多目的に指導することができるとともに、指導上最も効果が上がる有効な内容であると考えられる。

イ 「健康の保持」に関する教材・教具や参考書籍について

教材・教具

『子どものぜんそく』カセットテープ、『運動による呼吸数、体温、脈拍の変化』学研ビデオ、前屈・開脚の測定器、足湯用の入れ物、ペットボトルダンベル、運動や身体活動に制限のある子どものための野球ゲームセットやボーリングセット、バランスクッション、サイドステッパー、ゴム製スプーン、人体模型

参考書籍

「体の地図帳」「疾病の地図帳」「健康教室」「心拍数と運動強度」「食品交換表」「ここが知りたい小児ぜんそく」「エンカウンターで学級が変わる」「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる」「ライフスキルワークブックやさしいレクリエーションゲーム」「自立活動指導ハンドブック」「病弱教育Q & A」「自立活動の指導等」

「心理的な安定」について

ア 「心理的な安定」に関する指導内容

「心理的な安定」についても、児童生徒の実態に合わせ各学校でさまざまな指導が行われ実

践されていた。(表1)この内容を「制作的な活動」「調理的な活動」「ゲーム的な活動」「音楽的な活動」「運動的な活動」「その他」の項目に分けて表1にまとめてみた。この表からは、児童生徒が「自己の病気に対する不安」や「生活や運動の制限から来るストレス」を軽減させようとする内容を取り入れていることがうかがえた。

また、「この指とまれ」というネーミングの指導内容で、個々の児童・生徒の興味・関心を広げようと、いくつかの活動の中から児童生徒が選択して行う学習活動を取り入れている学校もあり、各校の工夫が伺えた。

表1 「心理的な安定」に関する具体的な指導内容

項目	指導内容
制作的な活動	チャレンジタイム・電子ブロック・スライム作り・アクセサリ・ビーズ・やって遊ぼう・自由画・模型工作・粘土細工・押し花に取り組む・アニメーション作り・パズル制作・焼き物体験教室・ぬいぐるみ制作・等
調理的な活動	ホットケーキ・もうすぐ夏だ！フルーツポンチを作ろう・いも煮会をしよう・お正月を楽しもう・料理研究・文化的な活動・お茶とよもぎ団子作り・野外炊飯や焼き芋・等
ゲーム的な活動	お正月を楽しもう・室内ゲーム・空気鉄砲を使った船遊びゲーム・ドミノ倒し・囲碁・将棋・トランプ・テレビゲーム・パソコン・お楽しみゲーム大会・興味関心に応じた活動・自己紹介ゲーム・等
音楽的な活動	カラオケ・音楽鑑賞・楽器・作詞作曲・ピアノ・ドラム・歌に合わせよう・楽器をならそう・好きな楽器演奏に取り組む・興味関心に応じた活動・ギター演奏・ピアノ・わらべ歌遊び・和太鼓・等
運動的な活動	ロングロング卓球・ゴロドッチボール・風船バレー・散歩・バトミントン・ランドゴルフ・卓球・水泳・ブランコ・ボーリング・バレーボール・インディアカ・体力づくり・どすこいサッカー・カローリング・ウォーキング・ゲートボール・玉入れマシーン・運動会練習・マラソン・サッカー・フリースロー・縄跳び・等
その他	ストレスマネジメント・お誕生会・あったまろう(音と光のファンタジー、初夏のファンタジー、クリスマスのファンタジー)・読書・書道・個別の振り返り・ストレスについて・自分をかたろう・ソーシャルスキルトレーニング・ロールプレイ・検定に挑戦・伝えたいことを話そう・サツマイモの栽培・どんな友達がいるかな・老人ホームの交流・エンカウンターの授業・等

## イ 「心理的な安定」に関する教材・教具及び書籍について

### 教材・教具

電子ブロック、粘土、問題集、ビーズ、巨大迷路、手作り楽器、エコグラフ、調理器具、パソコン、デジカメ、ペットボトルダンベル、ミラーボール、OHPシート、ステンドグラス、空き缶、色画用紙、工作道具等、各種のスポーツ(バレーやバトミントン・卓球、カローリング等)の用具等

### 書籍

「エンカウンターで学校が変わる part 2」「ストレスマネジメント教育実践研究会編」「ストレスマネジメント・ワークブック」「自立活動指導ハンドブック」「病弱教育Q&A」「自立活動の指導」「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる」「ライフスキルワークブックやさしいレクリエーションゲーム」等

児童生徒の安静度に合った余暇(休み時間)の過ごし方について

余暇の過ごし方では、「学校生活管理指導表」に基づく表から「A:在宅医療・入院が必要」「B:登校はできるが運動は不可」「C:軽運動は可」「D:中程度の運動は可」「E:強い運動も可」のA~Eまでの運動制限に対して、児童生徒の余暇の過ごし方を回答していただいた。

児童生徒の余暇(休み時間)の過ごし方においては、ゲーム的な活動、パソコン・インターネ

ット、音楽的な活動、読書などが、どの運動制限にも余暇（休み時間）の活動として取り入れられていた。

その中のパソコン、インターネットは、パソコンの持つゲーム的な面やインターネットのような情報収集的な面が児童生徒の興味・関心を引くことがうかがえた。そこには、病弱養護学校の学習指導の中で運動制限から来る体験的学習の不足を補うために、インターネットを使って教科指導の充実を図っている実態がある。そのため、日頃の教科指導や総合的な学習等での学習指導が、パソコンの持つ情報収集力やゲーム的な面への興味・関心及び、操作する力を育てることにつながっていることがうかがえる。

次に学部別に活動内容を分析すると、小学部は、鬼ごっこ、陣取り、缶けり、かくれんぼなどの伝承遊びや遊具で遊んでいるとの回答もあり、集団での余暇活動が中心になっていた。中学部・高等部では、テニス、バスケットボール、野球などの中学生や高校生がクラブ活動で取り組んでいるような内容のスポーツを行っていた。また、音楽的な活動で中学部はピアノ、高等部はギターを弾くなど、主体的に余暇を過ごそうとしている様子が見え、学年が上がるに従って余暇（休み時間）の過ごし方が、趣味的な活動の内容まで広がってきているように思われる。

表2 余暇(休み時間)の過ごし方の具体的

A：在宅医療・入院が必要	B：登校はできるが運動は不可	C：軽い運動は可	D：中程度の運動は可	E：強い運動も可
ゲーム的な活動（カードゲーム・ボードゲーム等）				
パソコン・インターネット等				
応援		伝承遊び・遊具等		
テニス・卓球・バトミントン等				
音楽鑑賞・楽器の演奏等				
友だちや先生との会話				
外気浴・散歩等				
読書				

#### (4) 疾病に関するデータベースの作成

疾病に関するデータベースの作成については、医学の進歩とともに運動制限や食事制限などの日常生活の仕方に対応した取り組みが必要であると考え、まず疾病に関する情報の収集を行なった。そして、在籍する学校での情報の共有化を図るために、校内LANの中でデータベースとして活用できるようにすることを目的とした。

図2 疾病に関するデータベース

内容は、疾病に関するデータ・病弱教育関連の著書・自立活動のアンケート調査の結果を、掲載できるように準備を行った。疾病に関しては、心臓病、肝臓病、糖尿病、血友病、腎臓病、先天性巨大結腸症（ヒルシュスブルグ病）、白血病、心身症、気管支喘息、二分脊椎、鎖肛、多発性神経炎、起立性調節障害、アレルギー、不安障害、境界例等の16の疾病について調べ、それぞれの最も分かりやすいと思われるホームページにショートカットで入れるように作



成を行った。また、病弱教育に関連する書籍もアンケートや基礎研究で収集した情報をもとに約50冊ほど紹介を行っている。アンケート調査の結果については、「健康の保持」と「心理的な安定」の情報について具体的な内容や教材・教具、書籍等を各学部に分け、整理したものを内容の一つとして盛り込んだ。

**(5) 教材・教具の作成**

教材・教具については、プレゼンテーションを中心に作成した。プレゼンテーション作成では、学部全体（低学年～高学年）の児童がより理解しやすく興味・関心を持たせることを念頭に作成を行った。そこには、漢字への振り仮名、説明文の言葉の選択や意味理解のためのイラストと写真等の選択や、アニメーションの設定等の工夫を行った。（図3）

プリント、掲示物、カード等の作成では、児童ができるかぎり見やすく理解しやすいものにするためと、教材・教具としての保存や修正、再利用がしやすいという点から、デジタルデータで作成を行った。

実際にプリントやカードを作成して感じたことは、基本のプリントが作成できると、児童の学年に合わせてレイアウトの修正や、印刷の仕方でもできるなど実際の授業を行う上で応用範囲が広いということであった。

図3 プレゼンテーション

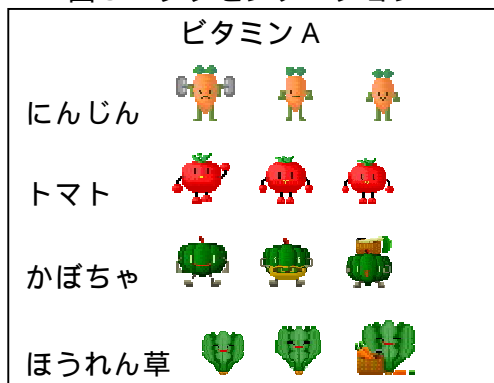


図4 ばい菌の絵カード



**(6) 検証授業**

検証授業の概要

ア 検証授業の目的

作成した教材のプレゼンテーションやプリント、カードなどの有効性の検証を行う。

イ 検証授業の題材

「風邪を引かない身体を作ろう」

ウ 授業対象児

高知県立高知江の口養護学校 小学部 11名（1年生から6年生） 訪問生1名を除く。

検証授業後の評価

全体的な授業の評価としては、「楽しく学習することができましたか」の質問に「よくできた」と「できた」が10名中8名おり、ほとんどの児童が楽しく学習ができていた。（グラフ3）「友達と協力して学習することができましたか」についての質問に「できた」「ふつう」が10人中9人と答えていた。（グラフ3）しかし、班での話し合いがスムーズに進まなかった班の高学年の児童に「ふつう」や「できなかった」と答えた児童が多かった。原因として考えられることは、リーダーシップが取れる児童をグループに置くことができなかったことである。少人数という学部の実態の中で学習グループを作ることの困難さを感じた。

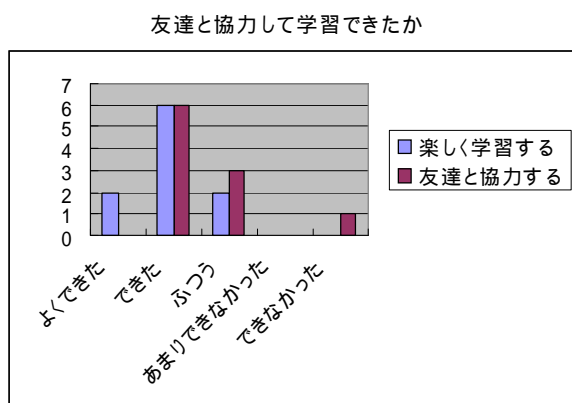
「一番分かりやすかった学習は、何ですか」の質問には、10名中6名までがスライドの学習が分かりやすかったと答えていた。（グラフ4）



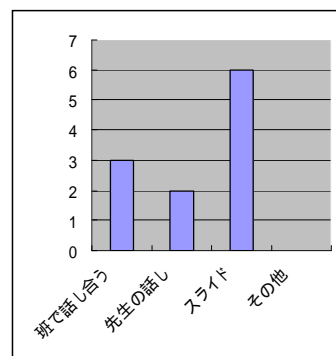
学習のまとめの部分で簡単な説明のプレゼンテーションを行ったが、どの児童も集中して見ており、プレゼンテーションが終わると「もう、終わり？」という児童もいた。プレゼンテーションが子ども達の興味・関心を引く、有効な教材であることがうかがえた。

プレゼンテーションは、視覚的に内容を訴える効果があるため学習内容についての理解がしやすくなる教材であると同時に、児童が興味・関心を持続させ、さらに授業を展開する上で変化をもたせることができる有効な教材であると感じた。

グラフ3 楽しく学習することができたか



グラフ4 一番分かりやすかった学習



## 4 今後の課題と成果

### (1) 成果について

アンケート調査からは、たくさんの指導内容の情報を得ることができた。そのアンケートを分析した結果、「健康の保持」の4つの項目の具体的な指導内容に重なりがあることが分かった。また、「健康の保持」の中で『健康状態の維持・改善に関する指導』の具体的な指導内容の中の楽しみながら体力づくりを行うことができるゲーム、バドミントン、バレー、ウォーキング、卓球、サイクリング等は、他の学校で「心理的な安定」の中の『情緒の安定に関する指導』として取り上げられていた。そこで、一つの指導内容が視点を変えると違う区分での指導内容にすることができることが分かった。

このような結果から、「健康の保持」と「心理的な安定」の区分やそれぞれの4つの項目の具体的な指導内容の重なった部分は、多目的に指導することが可能な指導内容であり、教材・教具を作成することで自立活動の指導の充実をさらに図ることができると思う。

また、「健康の保持」や「心理的な安定」で学習したことを、児童生徒が、余暇の過ごし方の中に取り入れているという傾向が強いことが分かった。このことは、「自己の病気を管理した生活の仕方」が理解されるだけでなく、行動に結びついていると思われる。そこで、自立活動の重要性を再認識した。

次に検証授業においては、低学年から高学年までに児童に分かりやすく学習ができるように教材・教具を心がけたことで、学習に最後まで参加することが難しい児童や、中学年、高学年の児童にも学習が分かりやすくなった。

また、学習内容の中には、高学年にとっては簡単過ぎるのではと思う教材もあったが、学年相応の用語や説明、活動、教材・教具等を取り入れることで、低学年から高学年までの児童の興味・関心を持続させたまま、楽しく学習に取り組めることが分かった。

疾病に関する情報の共有化を図るためのデジタルデータについても、疾病に関するデータ・病弱教育関連の著書・自立活動のアンケート調査の結果を、掲載できるように準備を行うことができた。

### (2) 課題について

今後の課題としては、医療情報、自立活動に関する教材・教具などを、個人が蓄積するレベルが

ら、校内で共有できるようなシステムを在籍校の実情に合わせて修正することであり、教職員が活用しやすく、かつデータ化に参加しやすいシステムの構築が課題になると考える。

そこで、疾病に関する情報の共有化を図るための手立てとして、数多くのWeb情報の中から、個々の教員が調べたコンテンツでデータ化してもらいたいものを、いったん蓄積し、その中から、適切と思われる情報をデータベース化することが、個人のレベルから共有のレベルになるのではないかと考えた（図5）。

今後、在籍校にて、活用しやすいように改善していきたい。

また、自立活動の教材・教具についても、こうした共有化のシステムを通して在籍校の実情に合わせて充実させていくことが課題になると考える。

図5 共有化のための手立て



## 5 おわりに

本研究では、「自己の病気を管理できる子ども」を目指して、疾病に関する情報の共有化を図るデータベースの作成と、自立活動における教材・教具の開発に取り組んできた。その中で、プレゼンテーションやデジタルデータを使った教材・教具の有効性について検証することができた。

今後も児童生徒が健康の回復・改善を図りために、自己の病気を管理し生活することができる能力を育てるにための、具体的な支援の仕方について研究活動を継続していきたいと考えている。

### 【主な参考、引用文献】

- ・文部省：『盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領（平成11年3月）解説 - 自立活動編 - 』、海文堂出版、2002
- ・重複障害教育研究部編集：『プロジェクト研究報告 盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領のもとでの教育活動に関する実際的研究 - 自立活動を中心に - 』
- ・黒木あらた：『平成14年度国立特殊教育総合研究所長期研修員研修成果報告書 病弱教育における自立活動の評価のあり方の検討』、2003
- ・武田鉄郎編集者：『平成15年度一般研究報告書 慢性疾患児の自己管理支援に関する研究』、独立行政法人国立特殊教育総合研究所、2004